

1. 施設整備方針（設計コンセプト）・施設イメージ図

基本設計
コンセプト

施設全体コンセプト

川岸地域の歴史・伝統・風土を『紡ぎ』、 子どもたちが『織りなす』未来への架け橋

幼児から小中学生までの子どもたちが、連なる一つの学び舎で過ごし、川岸地域の歴史と伝統、自然や風土を感じながら個性を伸ばし、異年齢による集団生活の中で、社会性を身に付け、未来へ羽ばたく力を育む施設を整備します。

義務教育学校コンセプト

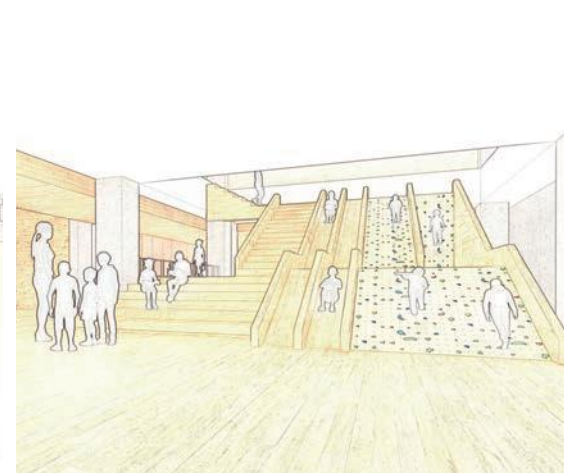
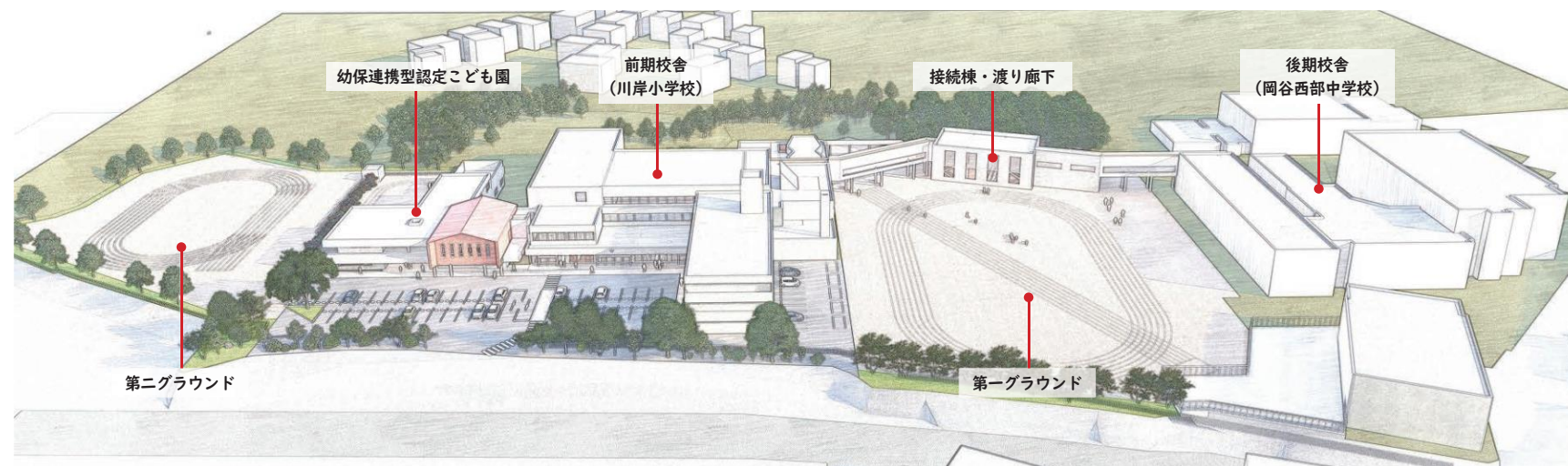
子どもたちの活動が織りなす、 地域に開かれたしなやかな教育環境の実現

児童・生徒が日々行き交い、学校生活の中で交流を育み、時には地域の住民と触れ合いながら、多様性に包まれた個別最適な学びができる義務教育学校への移行をめざす施設として、学びの多様化や様々な交流活動にフレキシブルに対応できる環境を整備します。

認定こども園コンセプト

統合各園の歴史を受け継ぎ、 自然に包まれた笑顔溢れるこども園

統合となる各園の歴史を受け継ぎ、天竜川や高尾山に抱かれ、温かい日差しや心地よい風が抜ける自然に包まれた環境の中で、元気さと笑顔溢れる活動や遊びを通じて、大きく成長できるこども園を整備します。



2. 配置計画

子どもたちの安全な登下校や登降園の動線確保とグラウンドの有効範囲を最大とする配置計画とします。

給食食材搬入とメンテナンス車両の動線を確保

生徒・児童・教師がスムーズに移動できる接続廊下

200mトラックと100mレーンを確認可能な施設配置

給食室跡地は駐車場を整備

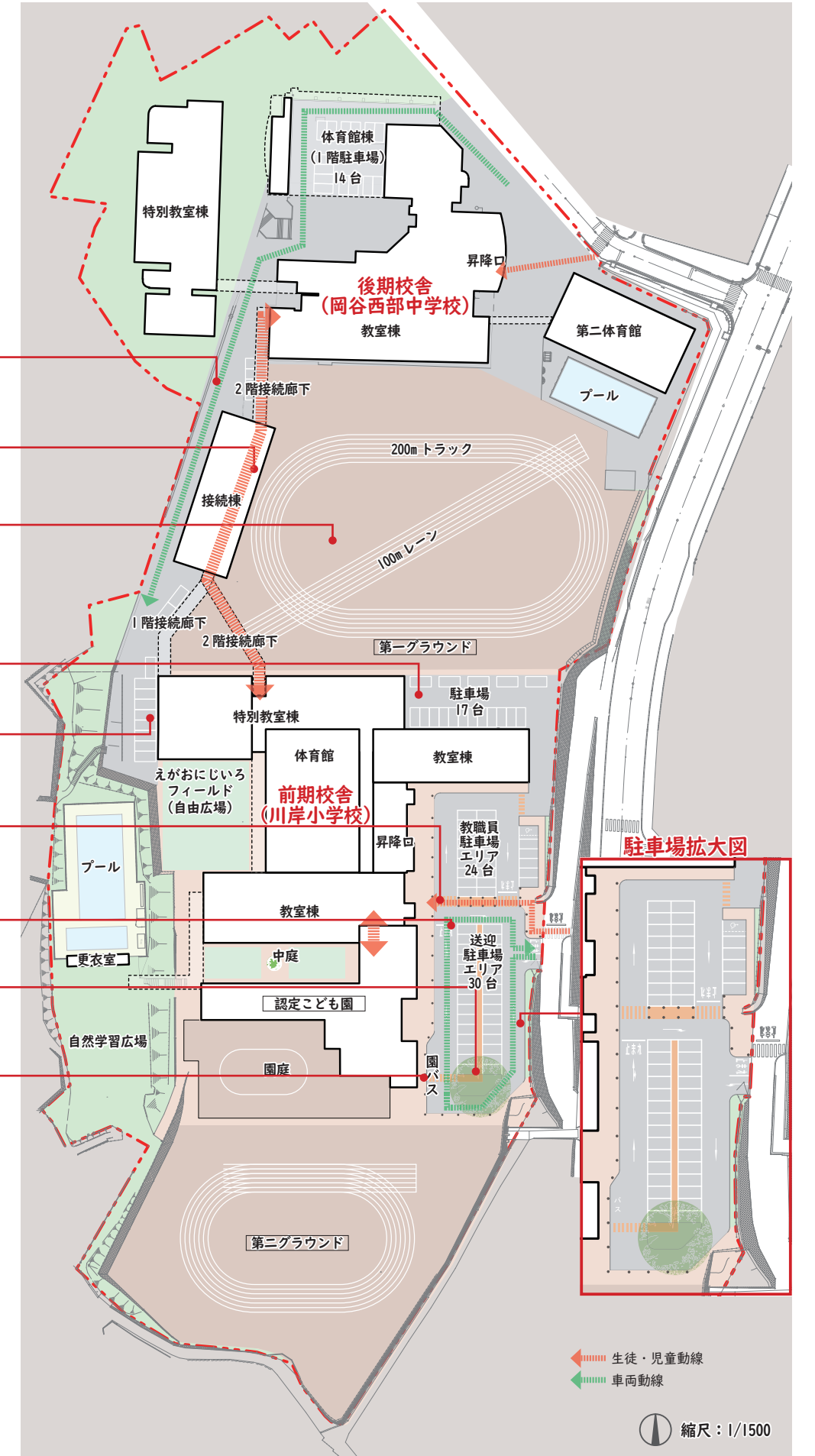
土砂災害特別警戒区域に当たる校舎を一部解体し安全に配慮

横断歩道やバリアカーにより安全な登校動線を確保

一方通行の安全な駐車場

川岸小学校のシンボルでもある「とちの木」を残す

園バス停留所を計画



川岸学園整備事業〈基本設計（案）の概要〉

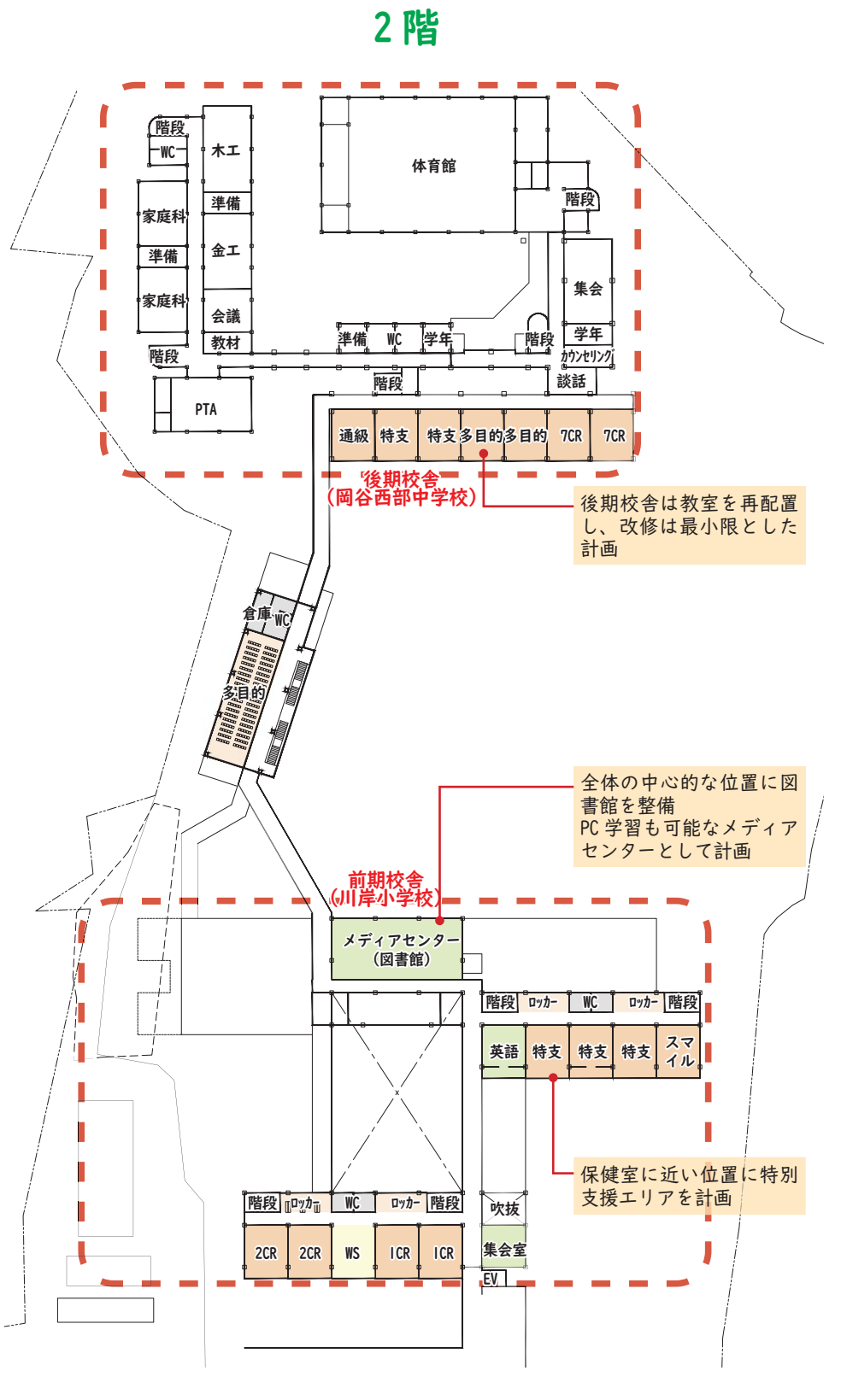
3. 平面計画

3-1. 義務教育学校

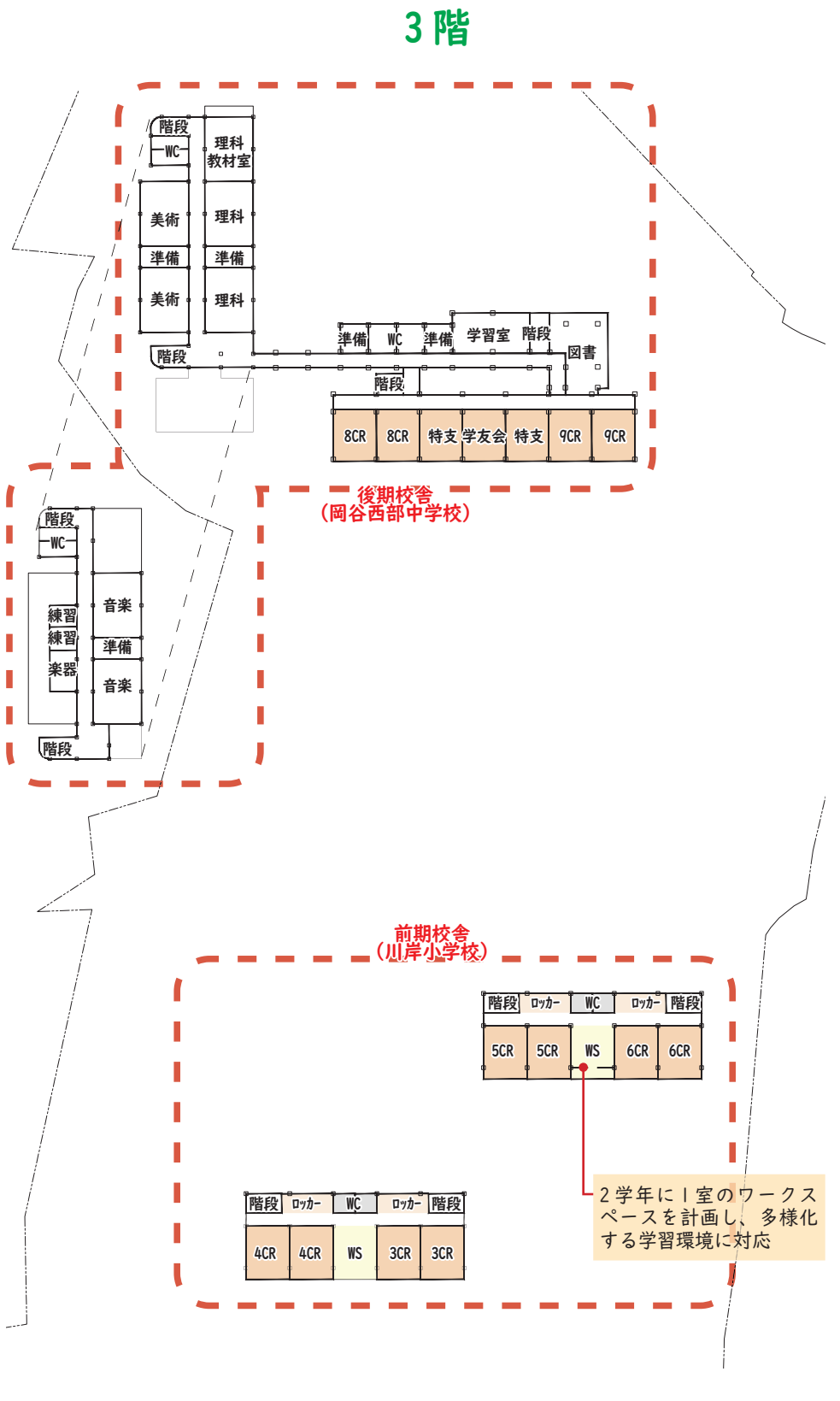
川岸小学校の既存構成を尊重しながら、義務教育学校として各クラスルームから特別教室等への移動、教職員の流動的な授業計画等を可能とする施設ゾーニングとします。
異学年交流や地域交流の場を設け、関連する諸室をまとめた計画とします。
特別支援教室の他、中間教室や通級教室を十分に計画します。



① 義務教育学校 1 階ゾーニング
縮尺：1/1200



② 義務教育学校 2 階ゾーニング
縮尺：1/1200



③ 義務教育学校 3 階ゾーニング
縮尺：1/1200

川岸学園整備事業〈基本設計（案）の概要〉

3. 平面計画

3-2. 接続施設

川岸小学校と岡谷西部中学校をつなぎ義務教育学校を形作る接続棟は、ゆとりがあり、見通しのよいシンプルな接続動線に沿った諸室レイアウトとします。

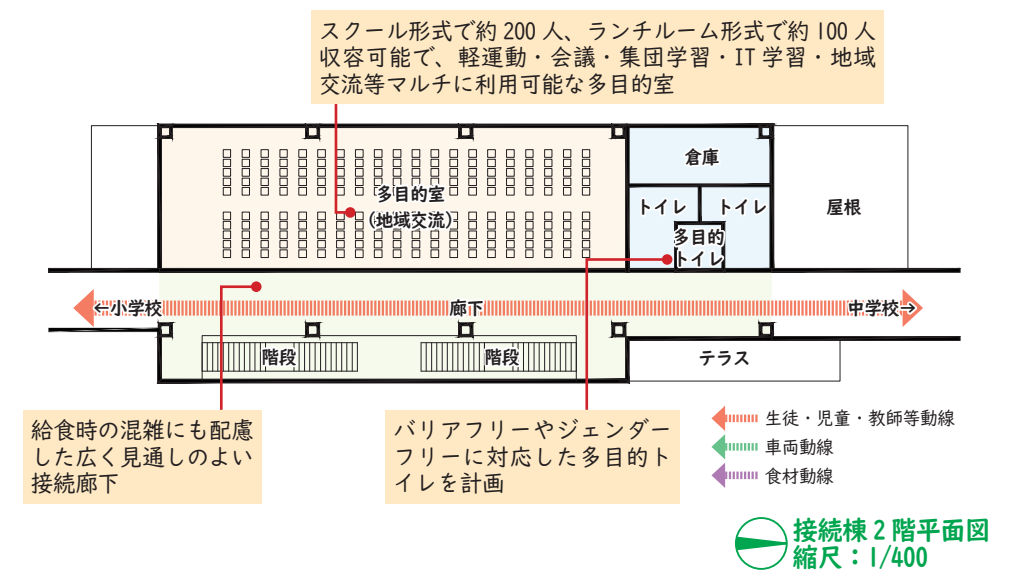
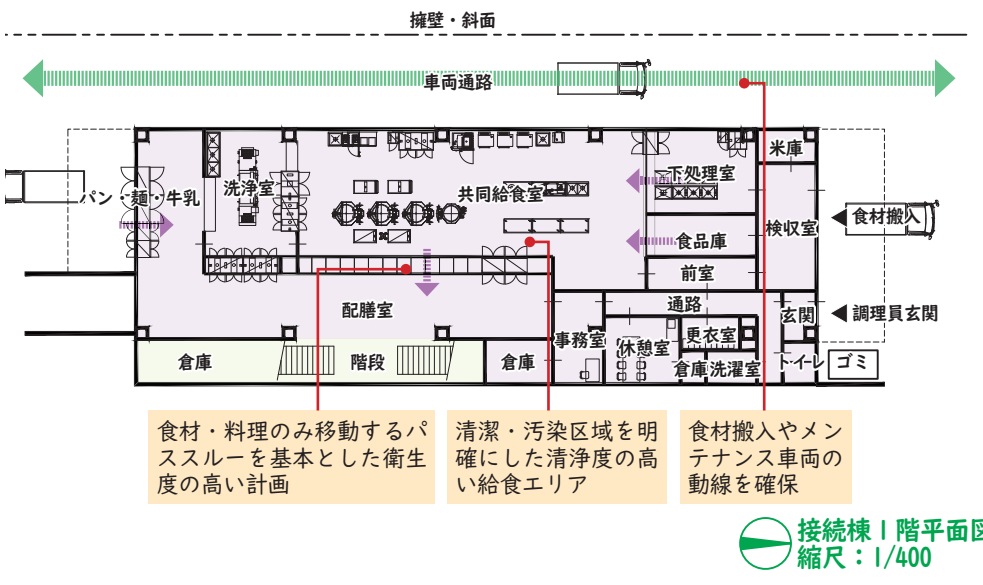
前期校舍（川岸小学校）と後期校舍（岡谷西部中学校）の中間に位置するメリットを活かし、休み時間の軽運動や複数クラスの集団学習、各種会議、プロジェクター等を利用した IT 教育、地域活動等、様々な使い方ができる多目的室を整備し、異学年交流や地域交流の場とします。

給食室は約 500 食規模で計画し、清潔区域・汚染区域を明確にした衛生度が高く、クリーンな計画とします。
人が清潔・汚染区域を移動せずに食材のみ移動するパススルーを基本とした清潔で効率的な構成とします。

バリアフリーやジェンダーフリーに対応した誰もが安心して利用できる多目的トイレを計画します。

3-3. 認定こども園

全ての保育室が直接又は廊下を介してスムーズに屋外にアクセスできる川岸地域の自然に触れられる平面計画とし、体格が異なる 3 歳未満児と 3 歳以上児の保育室は明確にゾーニングします。
事務室は園舎中央の園庭が見渡せる位置とした園児を見守りやすい計画とします。



外観は日本最大の製糸工業を営んだ地元にゆかりのある片倉組をイメージし、岡谷市出身の作家、武井武雄の世界をモチーフにした絵本コーナーやサインを計画し、子どもたちが岡谷市ならではの芸術に触れられる施設とします。
外部には市花のつつじや川岸小学校のシンボルとなっているとちの木がある、自然豊かな環境を活かした計画とします。

